



大阪大学総合学術博物館 第10回特別展

演じる私たち

～戦後20年関西「新劇」の軌跡～

2017年10月23日(月)
→12月22日(金)

10時30分～17時
日曜祝日休館

※11月3日(祝)、11月5日(日)は開館

大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館

【主催】 大阪大学総合学術博物館

【共催】 関西学院大学博物館、大阪芸術大学舞台芸術学科舞台美術コース研究室、
大阪大学大学院文学研究科、日本舞台美術家協会 西日本支部、
かんさい・大学ミュージアム連携実行委員会

【協力】 大阪大学21世紀懐徳堂

大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館
〒560-0043大阪府豊中市待兼山町1-20
TEL:06-6850-6284

<http://www.museum.osaka-u.ac.jp>



演じる私たち

～戦後20年関西「新劇」の軌跡～

新劇は西欧近代劇の芸術的成果を日本に紹介し、実践した演劇活動および演劇ジャンルの名称です。日本の現代演劇の中心として舞台芸術のみならず映画やその他の文化芸術にも大きな影響を与えてきました。

一般的には新劇の劇団というと文学座などの東京の大劇団が思い浮かびますが、関西にもさまざまな劇団があり活動を行っていました。特に終戦後の1940年代後半には制作座や青猫座、くるみ座といった小規模ながら個性的な劇団が次々と旗揚げされ、多様な演劇的实践が行われるようになりました。

本展覧会では主に終戦後から1960年代ごろまでの関西の新劇に焦点を当て、関西の劇団や劇作家、俳優そして上演された作品に関わる様々な資料を紹介します。市民による観劇団体である「大阪労演」資料（関西学院大学博物館蔵）も多数出品します。観客の側からの視点を取り入れながら新劇を中心とした戦後の関西文化の一端を紹介します。



大阪新劇共同「煙のある室で」1950



青猫座「双頭の鷲」パンフ 1956



京都新劇人の会合同「どん底」舞台写真 1970



関西芸術座「虫」1957

関連イベント

ミュージアムレクチャー

戦後大阪の前衛劇 — 大阪円型劇場研究会・月光会の試み

日時：11月18日(土) 14:00～15:30
講師：須川 渡(大阪大学大学院文学研究科招へい研究員)
会場：大阪大学文学部芸術研究棟 芸3教室
定員：30名、当日先着順(無料、30分前より開場)

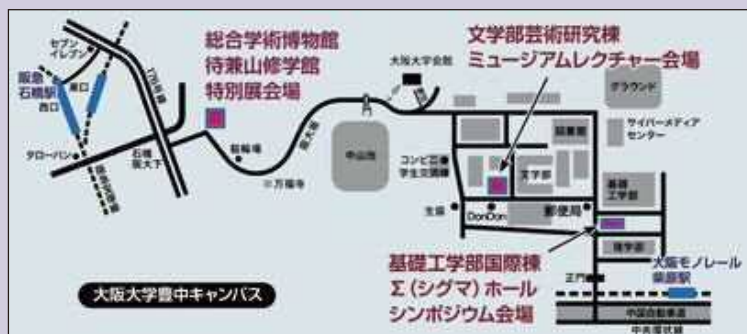
関西新劇の二人の舞台美術家—田中照三と板坂晋治

日時：12月9日(土) 14:00～15:30
講師：堀田 充規(大阪芸術大学舞台芸術学科准教授)
会場：大阪大学文学部芸術研究棟 芸3教室
定員：30名、当日先着順(無料、30分前より開場)

シンポジウム

戦後の関西「新劇」を考える～市民生活と演劇

日時：12月2日(土) 13:30～
会場：大阪大学 豊中キャンパス 基礎工学部国際棟Σ(シグマ)ホール
定員：200名 事前申込必要
主催：大阪大学総合学術博物館
共催：関西学院大学博物館、かんさい・大学 ミュージアム連携実行委員会
協力：大阪大学21世紀懐徳堂
助成：平成29年度文化庁地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業
※申込方法の詳細については本シンポジウムチラシ、当館ホームページをご覧ください。



〒560-0043 大阪府豊中市待兼山町1-20
TEL 06-6850-6284 <http://www.museum.osaka-u.ac.jp>

阪急宝塚線「石橋駅」下車 徒歩10分
※公共の交通機関をご利用下さい。



大阪大学総合学術博物館
待 兼 山 修 学 館